

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベルを 1（平常）から 3（入山規制）に引き上げ＞

口永良部島では、本日（3日）12 時 24 分頃、新岳付近で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上まで上がり北に流れました。

このため、口永良部島の火山活動が高まっていると判断し、本日（3日）12 時 50 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 3（入山規制）に引き上げました。

火山性地震や微動等の状況や傾斜変動の状況より、今後同程度の噴火が再び発生する恐れがあります。

【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①）

口永良部島では、本日（3日）12 時 24 分頃、新岳付近で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上まで上がり北に流れましたが、一部は南に流れました。新岳で噴火が発生したのは 1980 年 9 月以来です。

・地震活動（図 2、図 3-②、③）

12 時 24 分頃の噴火に伴い振幅の大きな微動が発生しました。新岳火口から北東約 2 km に設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅 769 マイクロメートル/秒（南北動）を観測しました。微動の継続時間は 6 分 30 秒でした。また、同観測点では 17.2 パスカルの空振を観測しました。

噴火発生前後の地震及び微動は少ない状況が続いています。

・地殻変動（図 4）

12 時 24 分頃の噴火に伴い新岳北東山麓観測点の傾斜計で山体が沈降する変動を観測しました。その後特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『基盤地図情報（縮尺レベル 25000）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 1 口永良部島 噴火の状況（8月3日12時26分、本村西遠望カメラによる）
灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上まで上がり北に流れましたが、一部は南に流れました。

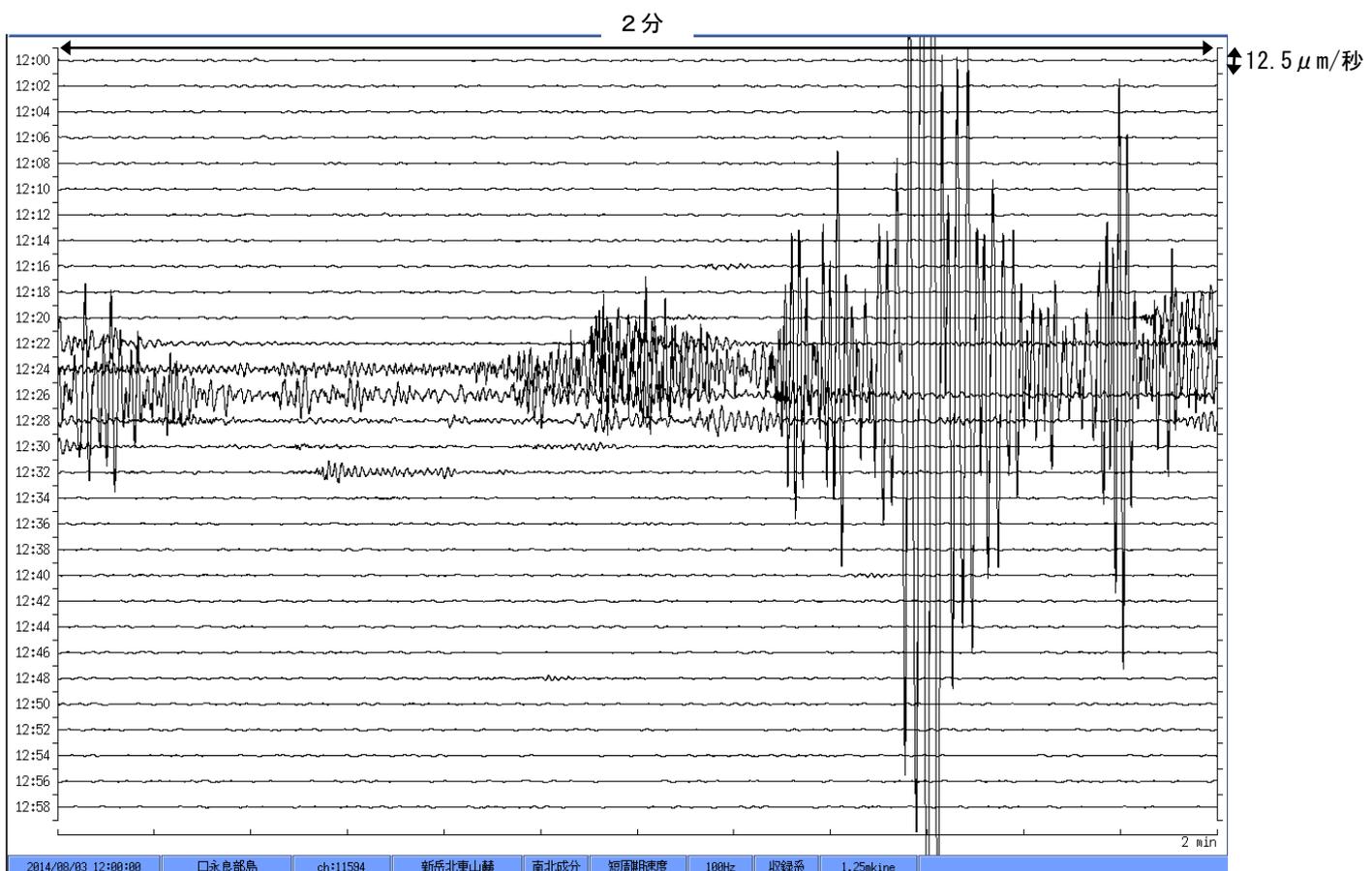


図 2 口永良部島 微動の状況（8月3日12時00分～13時00分）
12時24分頃の噴火に伴い振幅の大きな微動が発生しました。新岳火口から北東約2kmに設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅769マイクロメートル/秒（南北動）を観測しました。微動の継続時間は6分30秒でした。

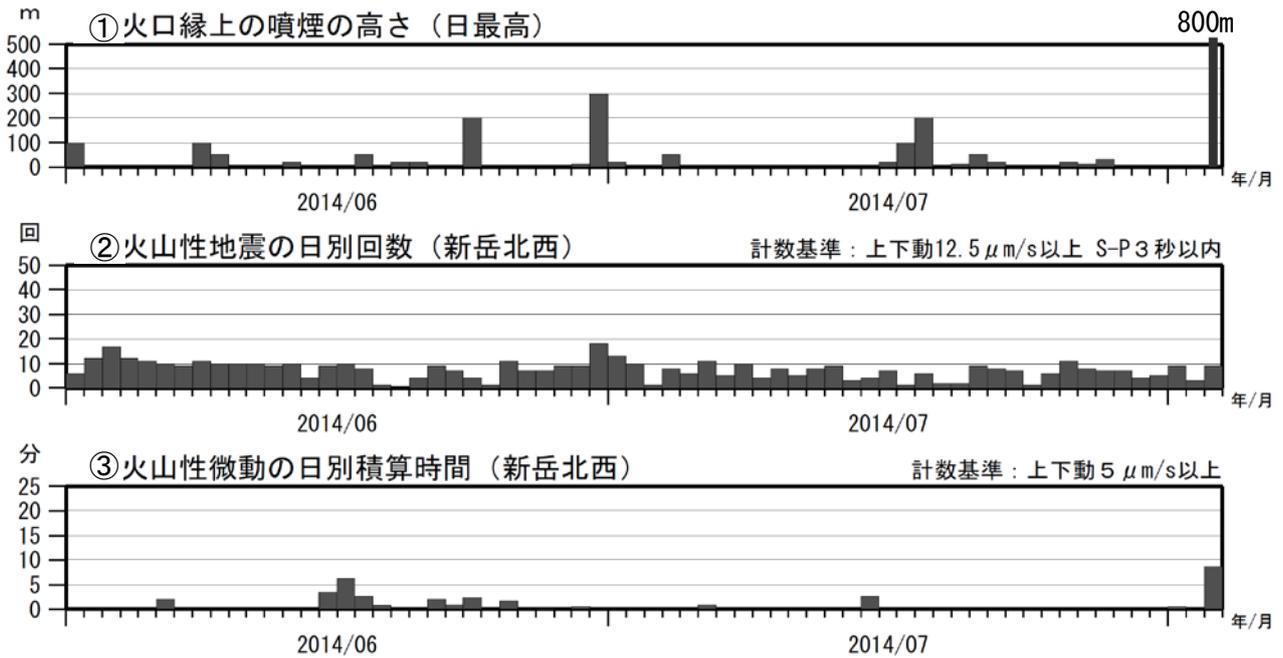


図3 口永良部島 火山性地震・微動の経過図（2014年6月1日～2014年8月3日）
火山性地震、火山性微動は少ない状態でした。

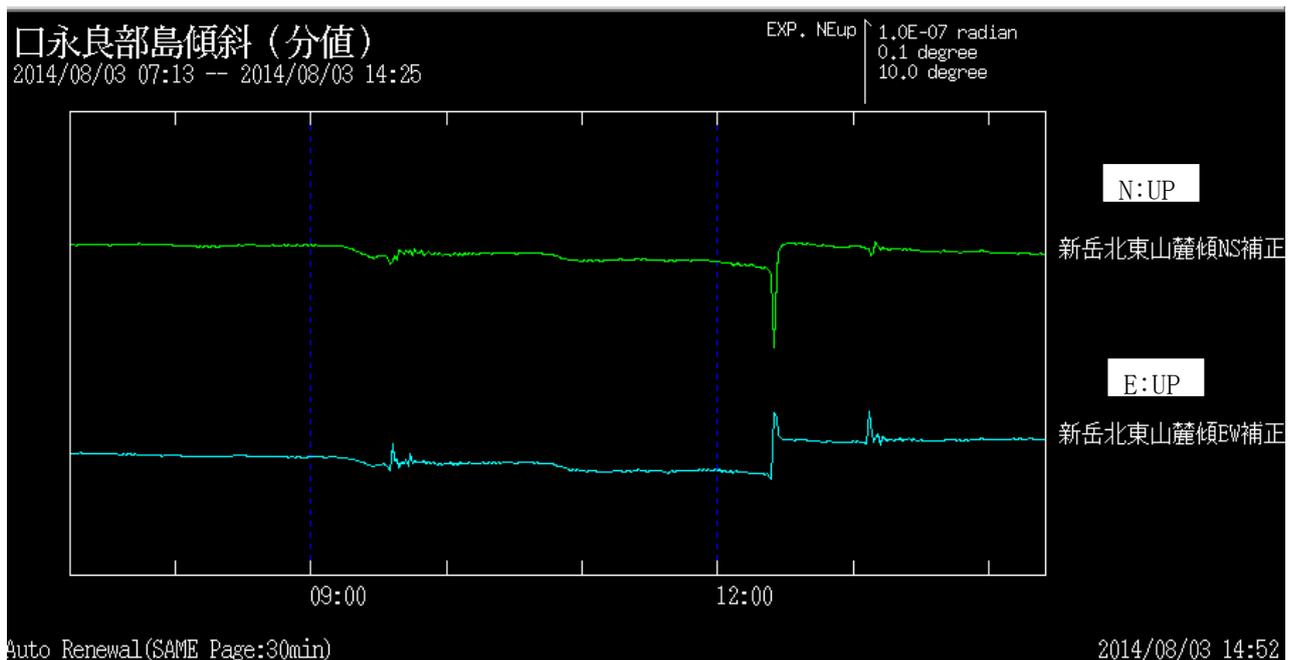


図4 口永良部島 新岳北東山麓の傾斜変動（2014年8月3日）
噴火に伴い山体が沈降する変動を観測しました。

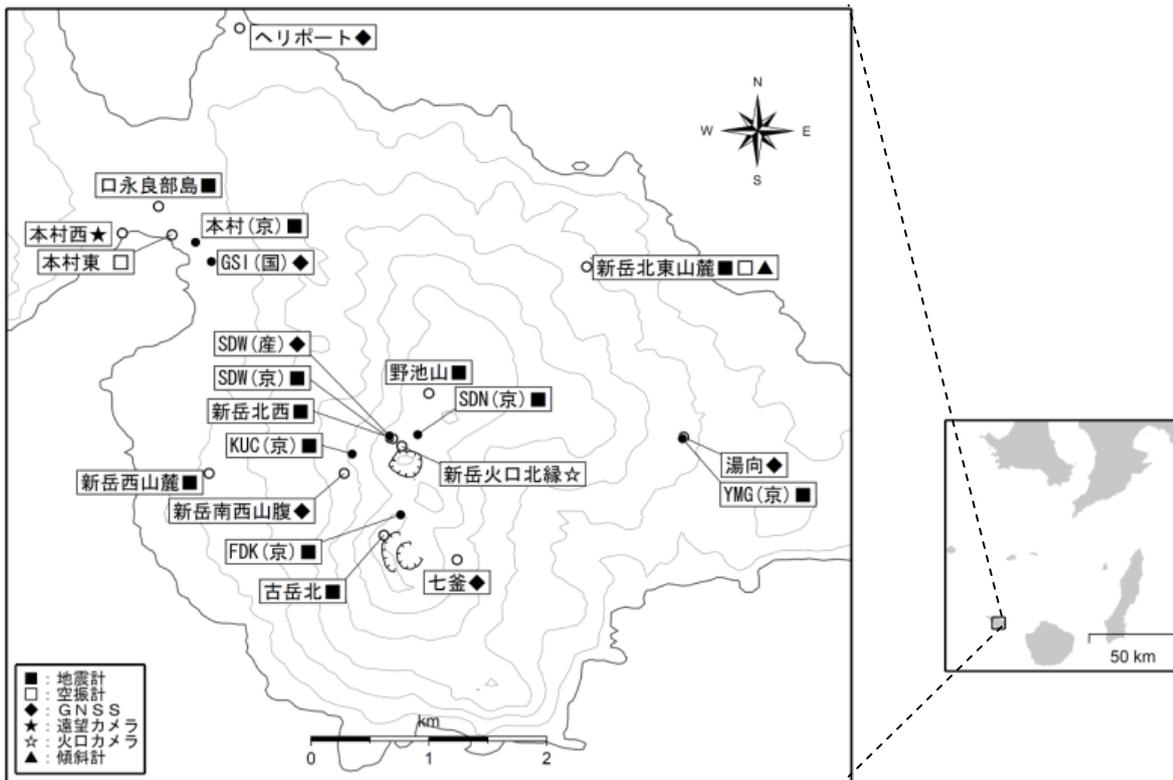


図5 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所